

# 機巢

同窓会報メールマガジン

Vol. 14 夏号

岐阜工業高等専門学校 機械工学科 機巢会

## 目次

- P-2 目次 & 会長挨拶
- P-3 2019年度機楽会総会報告 機楽会副会長 犬飼 宏好(8期生)
- P-4 総会&懇親会の写真
- P-6 機械工学科の現状について 機械工学科 山田 実 (24期生)
- P-7 OB紹介シリーズ 異業種で活躍する同窓生  
名岐プロジェクト有限公司 社長 中川 広 (3期生)
- P-9 「かぜのたより」  
.....涙について思う事 編 平野 紳二(6期生)
- P-11 学年学科を超えた交流会
- P-12 編集後記

## 会長挨拶

中野 廣幸

暑中お見舞い申し上げます。今年の夏は日照が少ないとはいえ、夏の暑さは体力的にもきつく、お盆休みが待たれる今日この頃です。みなさんはこの夏の休暇をどのようにお過ごしのお予定ですか？

欧米の企業では「サバティカル休暇」と呼ばれる長期休暇制度があります。「サバティカル休暇」とは、一定の長期期間勤続者に少なくとも1ヶ月以上の休暇を与える長期休暇制度です。通常の有給休暇などの年次休暇とは違い、休暇理由に決まりがなく、場合によっては1年にわたる連続休暇のケースもあるそうです。私は、この制度のことを20年近く前にカナダの大学の先生から聞きました。この長期休暇の間、職場を離れて自分の好きな勉強をしたり、旅行に行ったりして自分の人生を見直す機会にするそうです。実際その先生はこの「サバティカル休暇」をとって、一年間日本で過ごしていらっしゃいました。

私の場合ちょうど50歳の時に、「サバティカル休暇」とまではいきませんが、以前勤めておりました会社の勤続30年ということで2週間の特別休暇を取得出来ましたので、お盆休みの1週間とくっつけて3週間の連続休暇を取り、カナダで過ごしました。はじめの1週間は、妻と一緒にカナダ人の友人のお宅の訪問や観光に費やし、あとの2週間は私だけカナダに残り、現地の大学のサマープログラムに参加して、英語漬けの生活をいたしました。3週間この休暇は、見るもの聞くものが全て新鮮でとても刺激的なものであったと同時に、今までの人生を振り返り、今後の人生を考えるととても良い機会になりました。

それから5年後に、会社生活に区切りをつけて自分で仕事を始めました。いわば脱サラをしたわけですが、早期退職を決意させたのは、少なくともこの小「サバティカル休暇」であり、それが私自身の現在の職業である通訳の仕事をはじめのきっかけとなりました。

働き方改革が推奨されているとはいえ、まだ日本ではこの制度を導入している企業は少ないでしょう。しかし現在企業内において、活躍されている機楽会の会員のみなさんこそ、たとえ短期間だとしても、自分自身の日常から離れて自分自身を見直し、改めて自分自身に投資する、自分なりの「サバティカル休暇」を取る必要があると思います。



# 2019 年度機巢会総会報告

機巢会副会長 犬飼 宏好

5月11日(土)に名鉄岐阜駅近くの「ダイニング パラティエ」にて2019年度機巢会総会を約30名の会員参加のもと開催しましたので報告します。

中野会長の開会の辞から始まり、下記の議事(第1号議案～6号議案)を提案し承認を得ました。

## 第1号議案:2018年度活動報告

### ① 機巢会活動

役員会活動の内容、年4回のメールマガジン発行、在学生への支援活動(ロボカップジュニアジャパン2018への援助、留学支援、資格取得支援)、同窓会補助などの状況を報告しました。

### ② 若鮎会における活動

役員会、総会、公開講座、「若鮎の並木」保存会など、機巢会が若鮎会のイベントでどのような活動をしているか報告しました。

### ③ 岐阜高専に対する協力

岐阜高専地域連携協力会、大学教育再生加速プログラムに参加、協力しました。

### ④ 岐阜高専機械工学科に対する補助

機械工学科主催公開講座の補助を行いました。

## 第2号議案:2018年度収支決算報告、会計監査報告

支出総額は408,138円で、主な支出として、ロボカップジュニアジャパン2018支援(60,000円)、機械設計技術者試験支援(66,000円)、メルマガシステム環境整備(40,262円)、同窓会補助(47,000円)などがありました。

## 第3号議案:2019年度活動計画(案)

2018年度の活動と大きく変わる事はなく、機巢会活動、若鮎会における活動、岐阜高専に対する協力、岐阜高専機械工学科に対する補助などを進めていきます。

## 第4号議案:2019年度予算(案)

機巢会の予算は2年間で立案しており、総額1,890,000円を予定しています。主な活動として、総会費(300,000円)、留学支援(400,000円)、機械設計技術者試験支援(320,000円)、高専祭助成(100,000円)、同窓会補助(200,000円)などです。(金額は2年分)

## 第5号議案:機巢会規約の改訂

機巢会規約は昭和55年に発効しましたが、ほとんど改訂することなく現在に至っております。そこで、現在の運用と異なる部分の見直しや活動の円滑化を目的に改訂を行いました。主な変更点は、総会の毎年開催、総会を機巢会運営の審議部門に位置づけ変更、顧問の新設、幹事会を必要時開催に変更などです。なお、新しい機巢会規約は機巢会ホームページに掲載されています。

## 第6号議案:役員改選

2019年度を迎えるにあたり、役員体制を見直しました。中野会長は再選されましたが、副会長、理事などが一部改選となりました。なお、新しい機巢会役員は機巢会ホームページに掲載されています。

総会終了後に開催した懇親会では日々の仕事や趣味に関する情報交換を行ったり、機巢会活動に関する意見交換をしたり、ミニ同窓会の場となったり、有意義かつ楽しい時間を過ごしました。

機巢会はOBの皆さんが岐阜高専卒業時に収めた入会金を基に、現役卒業生への試験費用補助や留学費用補助、同窓会費用補助などに活用したり、岐阜高専主催のイベントへの参加・費用補助、「メールマガジン機巢」発行など様々な活動を行っています。今後もメルマガの紙面を活用し、機巢会活動を紹介していきたいと思っています。また、機巢会総会および懇親会は毎年開催しますので、皆さんの積極的な参加をお願いします。

以上

## 総会の風景写真



## 懇親会全員集合写真





**来年の総会開催予定日は5月9日  
土曜日です**

**毎年恒例にしていけば、より多くの  
卒業生が参加してくれる会にな  
る事を願っています**

# 機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

## 【東海地区高専大会】

6月下旬から7月上旬にかけて行われた東海地区高専大会の主な結果と上位成績について掲載します。詳しくは東海地区高専大会のホームページをご覧ください。特に陸上競技と柔道は毎年成果を残しています。

### 第57回東海地区国立高等専門学校体育大会成績

競技名	競技種目	成績	備考
陸上競技	男子総合	優勝	全国大会出場は19種目
	女子総合	優勝	
サッカー		2位	全国大会出場
硬式野球		2位	
ソフトテニス	男子個人ダブルス	優勝	全国大会出場
バレーボール	男子, 女子	共に3位	
バスケットボール	男子, 女子	男子3位, 女子2位	
卓球	男子個人シングルス	2位	東海北陸地区決定戦出場
	女子団体	優勝	全国大会出場
柔道	男子団体	優勝	全国大会出場 その他5種目で全国大会出場
剣道	男子勝抜戦	優勝	

材料学を担当されていた本塚智先生が平成31年3月に大学に転出されました。そこであらたに島本公美子先生が採用されましたのでご紹介します。

## 【新任職員からのご挨拶】

平成31年4月に機械工学科に講師として着任いたしました島本(旧姓田中)公美子と申します。専門は材料設計・材料テーラリングです。これまでに経験してきた研究活動では、金属・セラミックス・ポリマー・水など幅広い材料の研究に触れて参りました。何か材料を提案する際に、これらのカテゴリーに捕らわれることなく平等な目線で選定することができる点は、自らの研究活動の中で特長的な部分であり、これまでにご指導をいただいた先生方に感謝しています。材料学に関するものづくりの分野ではニーズに合わせた材料の設計・創製・加工・提案を行うため、これらのカテゴリーに捕らわれない研究スタイルが重要であり、自らの研究の幅を広げてくれている大切な要素です。まだまだ未熟な部分はありますが、指導して下さる先生方の背中を追って、工学(特に、機械材料学)の分野から“社会に役立つものづくり”を目標に、日々研鑽を積んでおります。岐阜高専では自らの研究だけでなく、これまでの経験をもとに、地元企業の皆様や卒業生の皆様、在学生の部活動等のお役に立てればと思っております。材料学に関する課題等ございましたら、お気軽にお声掛けいただければと存じます。(岐阜高専 研究シーズ: <http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/seeds/PDF/shimamoto.pdf>) またオープンキャンパス等の行事では、七色に輝くセラミックスの焼成を行う予定です。お立ち寄りいただければと思います。自分のためだけではない、大切な人や環境を豊かにする心優しいものづくりを心掛けております。



茅野市精工連 50周年記念行事で七宝焼きを指導する姿(左)と柳平市長へご説明する様子(右)

# OB紹介シリーズ

## 異業種で活躍する同窓生

名岐プロジェクト有限会社 社長 中川広（3期生）

OB 紹介シリーズとして数人の同窓生取材してきたが、製造業以外で活躍される機械工学科の卒業生が意外に多いという事が分かってきた。今回登場いただくのは、岐阜県土岐市にて不動産業である名岐プロジェクト有限会社を経営する3期生の中川広さん。予め経歴をお聞きしていたところでは、波乱万丈そのもの。ご本人にその半生を振り返っていただくことにした。

### —ブラジルへの移住

岐阜高専を卒業した後、岐阜車体工業に3年間勤めました。その後、夫婦でブラジルへ移住したのですが、ブラジル移住というのは中学生時代からの一種のあこがれでした。何故ブラジルかという理由にははっきりと思いませんが、中学生のとき外務省に手紙を出してブラジルで働くにはどうすればいいか、問い合わせをしたことがあります。高専卒業生は労働経験が3年以上あれば夫婦で渡航費用無料という処遇でした。政府が政策として海外移住による技術協力を奨めていたのでしょう。

### —土木技術者として

ブラジルへは建築関係を希望していましたので空調技術者として赴任しました。プレス関係の経験があり、設備や治工具の専門性を生かそうと豊和工業（現地法人）に入りました。当然のことながらポルトガル語は勉強しておりましたが、現地で地図に残る建築・土木関係の仕事がやりたくて、ブラジル赴任2年目で夜間大学の土木工学科へ入り6年間勉強しました。

30歳の時に日系2世と共同で設計会社を起し、設計業務の傍ら、中国語からポルトガル語への変換など色々な仕事をやっていました。後にこの会社も畳んでサンパウロ州の町にある日本特殊陶業の現地法人に就職しましたが、ここも辞めて土木技術士として発電用ダム工事に係わりました。

### —自然食品の貿易

この後、32～38歳にかけてエンジニアリングとはあまり関係の無い自然食品・栄養食品関係の商売をやりました。当時、ローヤルゼリーというのが日本で流行っており、ブラジルで大量生産して日本に輸出しようと思ったのです。そこで養蜂業をやるために蜂蜜を作る蜂の研究をしました。ブラジルでは日本のようなミツバチがいなかったのでアフリカ蜂を使って交配研究していたら強暴な蜂ができてしまったことがありました。次にはプロポリスをやりましたが、これはローヤルゼリーのおまけでした。これをアルコールで殺菌して日本に輸出しました。他には、「癌に効く」と言われるアグリクスだとか、パフィア（ブラジル人参）を扱いました。

### —帰国そして第2の故郷ブラジルのために

貿易業が軌道に乗っていたとき、両親の健康問題が持ち上がり帰国しました。すぐには仕事がないので、土岐市で建具屋をやっていた兄のところでアルバイトをやりながら食いつなぎました。しばらくして亜斗夢（アトム）設計という設計会社に3年ほど係わりましたが、子供4人を大学へ行かせなければいけないので費用を稼ぐために独立して、中川機械設計を立ち上げました。しかし、実際には中川機械設計は開店休業状態で、外国人相手の仕事を考えていました。在日ブラジル人はとにかく情報が足りない。この人たちを対象にした新聞が関東地方で作られていました。その中部地区代理店をやらないかという誘いを受けて名岐インターナショナルプレスを設立しました。この



中川さんご夫妻（経営される会社にて）

頃、豊田市周辺ではブラジル人の自殺が相次いでいましたので、何かブラジル人の心の拠り所のきっかけを作ろうと思いました。そこでブラジル大使館などの後援を得て母国で人気のサッカー大会を開催し大成功を収めました。場所は地元、瑞浪市の運動公園を借りました。

### 一名岐プロジェクト設立

名岐インターナショナルプレスは、拠点を移していた名古屋での新聞販売業や広告業の看板でしたが、母体の法人としては中川機械設計でした。3年ほどこの状態でしたが社名と実態が合わないため、名岐プロジェクト有限会社を設立し、名実ともに機械屋とは違う世界に軸足を移しました。まず手がけたのが、CSチューナーの販売でした。販売先は日本全国で、沖縄で取り込み詐欺にもかかりましたが、何とか債権回収率97%ほどと良い商売になりました。しかし、チューナーを仕入れてDVDでTV放映のコピーを作って販売する海賊商売にも手を焼いたものです。

### 一不動産業へ進出

外国人（特にブラジル人）が日本で仕事をたくさんするようになり、彼らが定住のためマイホームを求めようになりました。しかし、言葉の壁は厚く、金が絡むと騙す輩も多いため、相談に来るようになりました。相談には乗ることができても住宅まではお世話できません。そうこうしているうちに、土岐駅前不動産業をしていた人から「ポルトガル語ができる中川さんが不動産業もやったら」と薦められました。UFJ銀行（現 三菱UFJ銀行）も融資の方で協力してくれることになり、55歳で宅建（宅地建物取引士）免許を取得して不動産業を始めました。開業当初は可児市で営業していましたが、トヨタ系勤務の外ブラジル人の案件が多かったです。またブラジル団地では多くの日系ブラジル人にマンションを売って儲けさせて頂きました。

不動産業が軌道には乗っていましたが、さすがにリーマンショックは苦しかったですね。当時は不動産コンサルタントの資格も取得したりして何でも屋になりました。外国語は英語、ポルトガル語、スペイン語の3ヶ国語がOKですが、これらのうち、ポルトガル語の法廷通訳を始めました。国際社会では、言葉ができないから騙されるのです。

### 一多角経営

不動産業に進出してからも外国人相手でしたが、日本人同様、子供の保育、教育問題は同じです。そこで保育園（コスモスプラザという名称です）を始めました。思い出深いのは、保育園に通っていた子供の一人が成人して20歳になったときに、自分のことを覚えていてくれて家を買ってくれたことです。

### 一管理業から大家さん業へ

私の子供4人のうち、2人が宅地建物取引士を持っています。このうち、一人はブラジル領事館勤務ですが、名岐プロジェクト（有）を継ぐかどうかは分かりません。私としては3～4年で会社をやめるつもりです。今の形態は委託された管理業ですが、今後、不動産所有による大家さん業に軸足を移していこうと思っています。

### 一後輩、現役学生に一言

人生100年時代ですから、自分の一生は自分で決めて、できれば好きなことをやってください。

### 一取材を終えて

今回、中川さんの同級生である（有）ロゴス社長の加藤さんに紹介していただき、土岐市の会社訪問が実現しました。私の同級生では、私も含めて、会社からの出張や駐在で海外赴任することはあっても、骨を埋めるつもりで裸一貫、という者はありません。すごい先輩がいらっしゃるものだったのと同時に、奥様がアマゾンのイメージがあるブラジルに新婚で嫁いだばかりで行かれたということに対して芯の強さを感じました。読者の皆様には、高専設立当初の先輩方が持たれていたパイオニア精神を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

（文責：中尾）



左から加藤さん、中川さん、筆者

平野 紳二(6期生)

私は高専を卒業してからすぐに社会に出るのがもったいなく？その後も学生を続け、25歳から働き出しました。今振り返れば卒業後の学生生活が最も楽しく、大切にしておきたい時間となりました。

私も60歳代半ばを過ぎると、否が応でも身体のままならぬことが多々起こり、腰が肩がと、老化を自覚せざるを得なくなりました。そんな我々世代の一番の関心事は、健康です。同級生の一人に、身体のケアを生業にしている者が居ますが、彼が一番身体に隠されたパワーを引き出し、健全な暮らしを手に入れていると感じております。

そもそも、身体が老化しているとの自覚は、脳を通して理解する訳ですが、肝心の脳は、自身の老化を理解できるのでしょうか、甚だ疑問です。



さて、今回のテーマは「涙」。今から随分前昭和の終わり頃でしょうか、テレビを見て涙ぐむ親父の姿が浮かびます。何故親父は、こんなことで涙ぐむのだろうと、心の引っかかりを感じていました。そんなことを感じていた私も、親父の年を越えるほど、齢を重ねてしまいましたが、最近とみに涙もろくなった自分を感じています。この世の中押し並べて、齢を重ねると涙もろくなるようです。

その原因については、

- ① 老化により大脳前頭葉の機能が最も早く低下し、感情抑制のコントロールが十分に出来なくなるため、涙もろくなる。
- ② 長い人生の中で積み重ねられた様々の経験が他人の痛みや苦しみ、その置かれた境遇等への理解を育んでいくため、齢を重ねると人間性が深まり、他人の出来事を自分のことのように共感することができるため、涙を流す。以上、二つがあるようです。

また、こんなことも言われています。嬉しい時や悲しい時に流す涙は、副交感神経が優位に作用していて、この時心はリラックスした状態で涙を流している事が多いそうで、涙に中に含まれるナトリウムの量は少なめで、サラサラとしていて水っぽいそうです。それに引き替え、悔しい時や怒った時に流す涙は、交感神経が優位に作用していて、この時心は緊張状態にある事が多く興奮しているので、涙はやや粘り気があり、ナトリウムが多く塩辛いそうです。「当時のことを思い出すとしょっぱい気分になる」なんて言いますが、実際に涙が塩辛いので、そういう言い方があるのかもしれませんが。

それはさておき、①の老化で脳の機能が低下して涙もろくなる、というのは何かさみしいものがありますね。映像やそれに重ねられた音や言葉を聞き、感情の高ぶりを抑えられなくなり泣けてくるのは、老化したからといわれてしまうのも、確かにそうなのかもしれません。それでも②の経験から他人の痛みや苦しみ、その置かれた境遇への理解を育んでいるため、人間性が深まり、他人の出来事を自分のことのように共感することができるので涙を流す、といった方が、老化を意識しているものにとってはホッとします。出来れば、②であってほしいものです。

そもそも脳の前頭葉って何を司っているところでしたっけ？ 前頭葉とは、頭の前半分、側頭葉の上前部にある領域で、前頭前野と運動野、運動前野に分けられるそうです。運動野は頭頂

葉に接する部分で、その前方に運動前野があり、どちらも運動の遂行や準備に関わっているらしいです。前頭前野は、思考や創造性を担う脳の最高中枢と考えられ、生きていくための意欲や、情動に基づく記憶、実行機能などを司っていて、前頭前野は脳全体の司令塔と言われ、オーケストラでいえば、指揮者にたとえられています。従って前頭葉の機能低下が起こると、オーケストラで良い音楽が奏でられないこととなります。なんとか、前頭葉の老化を遅らせたいものです。

閑話休題。

私には涙で記憶に色濃く残っていることが、二つあります。

祖母の臨終の時、その場に居合わせたのは私一人で、家族は別室に居りました。脳卒中で夜中に倒れた祖母は、私が高専より呼ばれ帰宅した時、大きないびきをかいて布団に仰向けに横たわっていました。枕元につくのがたまたま私の番だったような気がします。大きないびきが、スーッと静かになり、右の目尻から耳に向かって一筋の涙が流れ落ちました。あの涙の意味が、半世紀経った今も判っていません。

もう一つはかみさんが逝って独りになったときです。思えば私が涙もろくなったのは、かみさんが逝ってからですかねえ。あれから他人の心の痛みや苦しみやその置かれた境遇が、以前よりは少しは判るようになり、他人の出来事を自分のことのように共感できるように涙を流す、と言いたいところですが、現実はどうなのでしょう？

それでも一番いい涙は、共感できるものを見たり聞いたりして、泣くことのようにです。つまり感動して流す涙が良いわけです。だから「感動したい」って常日頃から思っています。そんな思いから、活字を読むのもそうですが、音楽、演劇、展覧会、映画、落語、歌舞伎、能、狂言、文楽等、可能な限り感動できそうなものに触れる機会を探っています。老老介護中とは言え、以前より時間に余裕が出来ました。今年になってからこれまで感動したくて出掛けた回数を拾ってみますと、25回ほどになります。

涙を流すポイントは、読書を含めた言葉と声や表情所作、のように今は感じています。展覧会へ出掛け感動して泣けた、あるいは、声のない音楽会で涙が出るほど感動した、という経験を残念ながらあまり味わっていないような気がします。私の感動の源が言葉と声や表情所作のようですから、落語や講談はまさしくそうで、歌唱や台詞、演技もそうです。人体を使って表現する芸術、つまり芸能といえば宜しいのでしょうか、その芸能が一番涙を流しやすいような気がしています。

脳中の前頭前野部分の共感脳に刺激を与えることが重要であり、それが免疫力を高めることに繋がるとさえ言われています。泣くことで体温が上昇し血流が増加する。体温が1℃上がると免疫力は約60%活性化され、免疫力アップに繋がるとも言われています。泣いた後気分がよくなると聞きますが、その理由は、涙と一緒に副腎皮質ホルモンが流れ、精神的なストレスを解消し、気分をスッキリさせてくれるからということと、涙を流すことで副交感神経が優位になり、ストレスモードからリラックスモードへ切り替わるからのようです。

つまり情動の涙は、免疫力を高め心身を穏やかにする源なわけ、ですね。

結論、大いに涙流すべし！



# 学年学科を超えた交流会 FB&GOLF

## 7月14日の巴里祭は来賓でお魚食おうぜ！岐阜高専 FB オフ会



前列左から、堀田律子（11E）  
 佐藤玲子（9A）  
 池田千賀子（9A）  
 戸本伸（15C）  
 高橋邦一（2A）  
 古川一吉（1A）  
 後列左から、辻武彦（12C）  
 藤井孝義（12E）  
 高田和男（12E）  
 中尾賢治（15M）  
 石井健裕（13E）  
 岡地宏（12E）  
 渡邊浩（2A）  
 井出隆司（12C）  
 入山要（1A） 計 15 人

毎年恒例の巴里祭（学科横断 OB の FB オフ会）も 7 回目を迎えました。12E の高田さんが発起人で参加の輪がどんどん広がっています。今年は大名古屋ビルヂングから東へ少し入った和食の店「米寅」が会場でした。掘炬燵でテーブルを囲み昔話から巴里祭がスタート。何かか自営業の方が多く、皆さん還暦前後にもかかわらず今後のビジネス展開の話に花が咲いていました。学科は異なってもクラブ活動などどこか共通点があるものです。来年の 7 月 14 日は火曜日です。私も参加予定です。（中尾賢治）

## 『E&M ゴルフ交流会』 2019.07.22、23 14Hill's C.C in 中津川



参加者  
 3M 青木健、向井軸郎  
 6M 飯田武志、太田哲也  
 巾猛嗣  
 7M 飯沼義徳、竹中信行  
 寺倉敏明  
 3E 伊藤猛司、坂井善幸  
 橋本博明、三辻重賢  
 1A 渡邊浩



夕食時には陽が差していました

機械工学科 0B8名、電気工学科4名、建築工学科1名の計 13 名 1 人翌日参加(3パーティー)で 7 月 22 日(月)に開催されました。3E 坂井さんのお世話により、高原のリゾートゴルフ場で、優雅で(?)涼しいプレイの予定でしたが、当日は、土砂降りの酷い雨で、後半はグリーンに水たまりができてしまい、「パッティングは、グリーンに乗せれば2パット」という特別ルールとなりました。そんな天候でもゴルフ好きの皆さんは最後まで楽しい会話をしながら親睦を深めました。リゾートホテルのような宿泊設備があり宿泊して翌日もゴルフをしました。4 名は、昨日とは打って変わって晴天の中でプレイ出来ました。2 日目は 3E 伊藤さんが参加して 5 名でミニコンペでした。（飯沼義徳 & 太田哲也）



## 編集後記

### 編集委員

6M 太田哲也



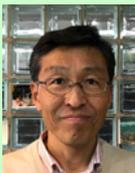
75歳で免許証返上を決意しました。自動車を運転しなくても良い生活を、元気なうちに考え実行していこうと思います。今できることは健康な体づくりです。規則正しくストレスのない生活に心がけています。100歳まで33年と2か月。まだまだ楽しいことが沢山あると信じています。

7M 飯沼義徳



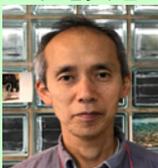
2020東京オリンピック開催まで、1年をきりましたが、運よく男子サッカーと女子ゴルフのチケットが当選しました。くじ運の悪い私が当たったので自分でも驚いています。来年の7月26日(男子サッカー)と8月6日(女子ゴルフ)は、スケジュール埋まってます。だけど・・・、移動、ホテル、はたまた体力(暑さ対策)、大丈夫かなあ？

8M 犬飼宏好



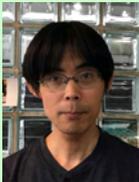
我が家の庭に植えてから20年以上過ぎたブルーベリーの実を編集会議に持参、メンバーから美味しいとのお褒めの言葉。その効果は絶大で、原稿チェックやレイアウト検討などスムーズに進行し、あっという間に会議は終了しました。(本当はメンバーの事前準備の賜物です。)

15M 中尾賢治



最近の自動車の技術進歩には驚くべきものがあると思います。しかし、元技術屋としては故障をだまして(構造を分かっている臨機応変に対応)、乗り続ける事ができなくて残念に思います。何でもコンピュータまかせではいけないですね。アナログ屋の僻みでしょうか。

24M 山田 実



今回は高専大会における上位成績チーム、個人を主に掲載しました。大会には部活の卒業生も応援に来ていただいて、選手の励みになっていきます。卒業すると競技を続けるのは難しくなりますが、昔を思い出していただければと思います。次回は、インターンシップや公開講座の記事を書く予定です。

33M 伊藤友裕



1を聞いて10を知った気にならず、10を聞くように心がけたいと思う今日この頃です。

発行日/2019年7月31日

責任者/中野廣幸

発行/岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室  
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343 FAX 058-320-1349

<http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html>